

公益社団法人 地盤工学会
基 準 部 会
 平成 25 年度第 3 回 議事録 (案)

担当 仙頭紀明 (幹事)

日時	平成 25 年 9 月 17 日 (火) 14:00~17:00					場所	地盤工学会 会議室	
部長	竹下 祐二	○	★理事	佐藤 毅	○	幹事	仙頭 紀明	○
★部員	浅田 素之	×	部員	伊貝 聡司	○	部員	長田 昌彦	○
部員	斉藤 和則	○	部員	高柳 剛	○	★部員	浜田 英治	○
部員	平井 貴雄	○	部員	藤原 照幸	×	★部員	峯岸 邦夫	○
部員	吉嶺 充俊	×	オブザーバー	中川 直	×	オブザーバー	小口 和明	○

★：H24 年度新任 ○：出席予定 ☆：出席（電子会議） ◎：代理出席 ×：欠席予定 △：未定

配 付 資 料

資料番号	資 料
資料-25.3.0	平成 25 年度 第 2 回基準部会議事録案
資料-25.3.1	中期目標における基準の英文化、試験基準の ISO 化に関する資料
資料-25.3.2	室内試験規格・基準委員会 平成 25 年度の全体構成
資料-25.3.3	地盤調査規格・基準委員会 平成 25 年度の全体構成
資料-25.3.4	第28回ISO/TC 190年次総会出席者スケジュール表
資料-25.3.5	JIS A 1205 「液性限界・塑性限界試験方法」の改正素案
資料-25.3.6	新規制定基準案「JGS 13XX 単孔を利用した地下水流向流速測定方法」
資料-25.3.7	新規 WG「不飽和地盤における原位置飽和透水試験方法の新規基準化WG」設立趣意書
資料-25.3.8	WG13 水圧破碎法による初期地圧測定方法の基準化検討 WG 活動報告書
資料-25.3.9	技能試験 平成 25 年度参加機関リスト
資料-25.3.10	技能試験 実施指示書
資料-25.3.11	地山補強土工法 設計・施工マニュアル 増刷計画書
資料-25.3.12	打戻し施工によるサンドコンパクションパイル工法・設計・施工マニュアル 増刷計画書
資料-25.3.13	理事会 (7/19, 8/20 書面) 開催報告資料
資料-25.3.14	地盤工学表記法委員会 H25 第 3 回委員会 (8 月 9 日開催) 報告資料
資料-25.3.15	JIS 用語選定表 (20130809 委員会結果)
資料-25.3.16	室内試験規格・基準委員会 会員からの質問に対する回答
資料-25.3.17	地盤調査規格・基準委員会 H25 第 1 回委員会 (8 月 28 日開催) 報告資料
資料-25.3.18	
回覧資料	

審議事項

1. 前回議事録の確認

(資料-25.2.0)

前回議事録を承認した。

2. 全体関係

(1) 平成 25 年度基準部の活動について

(資料-25.3.1)

佐藤理事作成の下記資料をもとにフリーディスカッションを行った。理事会で同資料を提示し、問題提起をして幅広く意見をいただくこととなった。

議論の内容は以下のとおりである。

① 中期目標における基準の英文化に関する、地盤工学としての戦略に関して

- ・どの国をターゲットにするか明確にする必要がある。国別で実務を担当している技術者からの聞き取り調査も必要ではないか。
- ・JICA 援助でベトナムの大学が日本の試験装置を導入、土質試験法についてレクチャーをする機会があることが報告された。
- ・規格作成からその後の海外への普及にいたる明確なビジョンとそのメリットを提案できれば、資金援助の可能性もある（英文化費用に関する外部資金の導入）。

② 試験基準の ISO 化に際しての確認事項に関して

- ・限られたマンパワーと時間で全方位的に対応していくことは困難である。分野ごと（環境等の新規分野、既に技術的に成熟した分野）に、背景や事情（日本提案、CEN リードの提案で日本はオブザーバ等）も異なるため、戦略も当然異なったものになる。
- ・ISO に取り組む際の学会として戦略を議論し共有することが重要である。
- ・ISO 化とその後の普及には系統立てたものの考え方（グランドデザイン）が必要ではないか。

③その他

高柳委員より基準の英訳が日本語 HP にのみリンクされている問題が指摘された。海外に日本の基準を発信するには、英文 HP からダウンロードできるようにすることが望ましい。広報委員会で HP 修正対応をいただける可能性があるようなので、作業をお願いすることとする。

基準のニーズを分析するために、ダウンロード数の把握のみならず、ダウンロードの際に簡単なアンケートをお願いして必要な情報（国、年齢等）を収集することが有益ではないかとの意見があった。HP でアンケートをとることの費用について見積をとることとなった。

3. 委員等の異動

理事会報告 (1) 室内試験規格・基準委員会

① 岡田 哲実 委員 ((一財) 電力中央研究所) → 白鷺 卓 氏 (鹿島建設 (株))

理由：基準部委員会運営細則（原則として、継続期間 3 年を限度とする）による委員の交代。

委員の交代を承認した。

②平成 25 年度の全体構成

(資料-25.3.2)

全体構成を承認した。

(2) 地盤調査規格・基準委員会

①平成 25 年度の全体構成

(資料-25.3.3)

全体構成を概ね承認した。ただし、WG9 については廃止する可能性について説明があったが、関連基準が 2 つあることから、今後の会員からの質問や基準のメンテナンスに備えて WG は形式上残しておくべきではないかとの指摘があり持ち帰って検討することとなった。

(3) ISO 国内委員会

(4) 地盤設計・施工基準検討委員会

(5) 表記法検討委員会

(6) 部員の異動

(7) 技能試験実施委員会

4. ISO 国内委員会 関係

理事会報告 (1) 国際会議派遣 **すべてメール審議済**

①第 28 回 ISO/TC 190 年次総会出席

(資料-25.3.4)

・行先：福岡（日本）

- ・出張者（ISO/TC 190/SC 3/WG 10 運営 WG でのけん制順）：
 - (1) 坂井グループ・リーダー（JR総研、ISO/TC190/SC3/WG10（予備試験法）—convenor、議長職）
 - (2) 浅田グループ幹事（清水建設、ISO/TC190/SC3/WG10（予備試験法）—project leader（Cr(VI)-TK）、議長職に準じる者）
 - (3) 竹田委員（シーメンスヘルスケア・ダイアグノスティクス、ISO/TC190/SC3/WG10（予備試験法）—secretary 候補者）
 - (4) 和田委員（九州大学大学院、ISO/TC190/SC3/WG10（予備試験法）—expert、チェコ共和国提案の全炭素・全チッ素向け近赤外検出法（NIRS）の認証試験担当）
 - (5) 野上委員（リガク、ISO/TC190/SC3/WG10（予備試験法）—project leader(RF)候補者）
 - (6) 藤田委員（日立製作所、ISO/TC190/SC3/WG10（予備試験法）—project leader(TA)、議長職に準じる者）。
 - (7) 今井委員（日立ハイテクノロジー、ISO/TC190/SC3/WG10（予備試験法）—project leader(燃焼式 IR)候補者）
 - (8) 鈴木委員（柴田科学、ISO/TC190/SC3/WG10（予備試験法）—observer）
 - (9) 高橋委員（昭和シェル石油、ISO/TC190/SC3/WG10（予備試験法）—observer）
 - (10) 藤原委員（大成建設、ISO/TC190/SC3/WG10（予備試験法）—observer）
- ・期間：2012年9月15日～9月19日

※出張期間は、出張者によって異なり、会議期間中に開催される第16回 ISO/TC 190/SC 3/WG 10（予備試験法）会議を中心に出席します。関連のない会議への出席は禁じ、「ついで出張」とならないよう出張行程を制限します。

なお、この年次総会は、ISO/TC 190/SC 3/WG 10 運営 WG の直轄運営になっておりますので、出張委員によっては、会議運営のため、関連会議の設定がない日であっても現地に滞在する場合があります。また、坂井グループ・リーダーと浅田グループ幹事にあっては、ISO/TC 190 の議長職または日本代表としての職分がありますので、第28回 ISO/TC190 年次総会期間中は通し出席いたします。
- ・理由：現在、日本（地盤工学会）は、ISO/TC 190/SC 3/WG 10（予備試験法）を主導し、地盤環境向けのスクリーニングに関する規格案のうち2件をすでにISO化し、その他2件（比濁検出法（TA）およびCr(VI)向けテスト・キット検出法（Cr(VI)-TK））を審議中です。また、新規規格化わくのひとつである気候変動（CC）についても、スクリーニング法の規格化事業の一環として2件（有機炭素向け燃焼式赤外検出法（燃焼式 IR）および水分向け屈折検出法（RF））、テスト・キット検出法の応用として1件（硝酸塩・亜硝酸塩向けテスト・キット検出法（N-TK））を関連WG等に提案、あるいは提示予定です。そこで、これら用件のため、関係議長職、議長職に準じる者およびこの候補者等を当該会議に出張させるものです。また、今回は当該年次総会をISO/TC 190/SC 3/WG 10 運営 WG が直轄で会議運営をすることとなったため、関係官庁の要請もあり、同運営WGの国内委員もオブザーバーとして参加させ、ISOでの審議経験を積んでいただくことになったものです。
- ・費用：本件については、経済産業省支弁（補助金および重点TC指定）となっております。なお、経費の支出区分は、別紙のとおりです。

②ISO/TC221/WG2,3,4,5,6 会議と総会への委員派遣

- ・行先：ロンドン（イギリス）、ミラノ（イタリア）
- ・出張者：宮田 喜壽 ISO/TC221 国内委員会委員長，防衛大学校
- ・期間：2013年11月23日～11月28日 会議は11/25～27，渡航費を考慮し11/23の出発を検討中。出張期間は、前後することがあります。
- ・目的：ISO/TC221/WG2(用語・識別・サンプリング)，WG3(力学特性)，WG4(水理特性)，WG5(耐久性)，WG6(設計法)の5つのWGミーティング，ならびに総会に参加し，我が国の実情を規格に反映させ，規格・基準に関する最新の情報を入手するために1名の委員を派遣したい。
- ・費用：ISO 対応活動費

③油分向け比濁検出法の認証試験実施（再試験）

- ・目的：日本（地盤工学会）からISO/TC 190/SC 3/WG 10（予備試験法）へ提案している「油分向け比濁検出法」について、2013年7月に韓国・ソウル国立大学で実施した認証試験については、その結果を編入してCD投票することになっています。このうち、蘭国提供の標準試料については、試料の均一性について疑義が生じたため、認証試験を再実施（確認試験）することになりました。このため、関係委員を出張させるものです。

- ・出張者：坂井グループ・リーダー（J R 総研、ISO/TC 190/SC 3/WG 10（予備試験法）—convenor、議長職）
- ・行先：韓国・ソウル
- ・期間：2013年8月末の2日間 ※認証試験実施日（出張期間）は、ただいま調整中です。
- ・費用：本件は、経済産業省支弁の補助金充当となっております。

5. 地盤工学表記法委員会 関係

6. 室内試験規格・基準委員会 関係

理事会報告 (1) JIS A 1205 「液性限界・塑性限界試験方法」の改正 **(資料-25.3.5)**
規格の改正案を承認した。

7. 地盤調査規格・基準委員会 関係

(1) 新規制定基準案「JGS 13XX 単孔を利用した地下水流向流速測定方法」 **(資料-25.3.6)**

基準案についてコメントがあれば9月27日までに浜田委員までメールをすることとなった。

(2) 新規 WG の設置「不飽和地盤における原位置飽和透水試験方法の新規基準化WG」

(資料-25.3.7)

趣意書からは、基準化 WG 設置の必要性を十分に理解できないとの指摘があった。基準化検討 WG における2年間の具体的な検討結果の要旨を踏まえて、基準化が適切であるとの判断にいたった根拠を示す資料を次回の部会までに提出いただくこととなった。

参考) 以下の条件が一つまたは複数あてはまること (規格・基準に関する細則 4.(2))

- 1) ある程度普及し、定着しているもの。
- 2) 一つの方法で、細部が異なるために混乱が生じ、統一する必要があるもの。
- 3) 近い将来、広く普及すべきもの。
- 4) 現行の方法に対して、代替法になるうる方法、または著しく有用なもの。

(3) WG13 水圧破砕法による初期地圧測定方法の基準化検討 WG の審議結果 **(資料-25.3.8)**

基準化検討委員会の審議結果の要旨が説明された。基準化が必要である具体的な理由が示され、上記の細則とも整合することを確認した。次回までに基準化 WG 設立趣意書を作成いただき、部会で審議をすることとなった。

(4) 小冊子の発行について

長田委員より地盤調査関連の新規制定基準とその解説を小冊子として速やかに発行いただきたいとの意見があった。青本はページ数の都合上、解説を当初よりも大幅に圧縮しており、詳細については小冊子を参照するように本文中に明記しているためである。事務局で速やかに発行することを確認した。

8. 地盤設計・施工基準委員会 関係

9. 技能試験実施委員会 関係

(1) 平成25年度参加機関 **(資料-25.3.9)**

(2) 実施指示書 **(資料-25.3.10)**

技能試験の進捗状況について報告があった。

10. 基準部所管刊行物

理事会報告 (1) 地山補強土工法 設計・施工マニュアル **メール審議済** **(資料-25.3.11)**

理事会報告 (2) 打戻し施工によるサンドコンパクションパイル工法・設計・施工マニュアル **メール審議済**

(資料-25.3.12)

理事会報告 (3) 「地盤調査 基本と手引」の発行

- ① 印刷部数：2000部
- ② 価格：会員特価2,400円（税別）、定価3,200円（税別）
- ③ 発行日：2013年9月末予定
印刷部数と販売価格を承認した。

12. その他

報告事項

1. 理事会（7月19日、8月20日書面会議）開催報告 (資料-25.3.13)

会誌の年間冊数削減、26年度予算作成方針、交通費の支給方法等が説明された。

2. 全体関係

3. 部会・委員会関係

(1) ISO 国内委員会

理事会報告 ① 平成25年度 ISO 対応活動費の資金援助要請に関する経過報告

(相手先)	(金額)		報告書の有無	(納期)	
	助成	受託			
・土木学会	100万円		○		
・三菱総合研究所 (回答作成)	40万円		○		
・三菱総合研究所 (重点TC旅費)	100万円		○		
・日本建設業連合会	50万円		○		
・ISO/TC190 関係 (研究委託)	50万円		○		
・三菱総合研究所 (国際標準開発事業)		450万円	○		
小計	340万円	450万円			
合計	790万円				

(2) 地盤工学表記法委員会

① H25 第3回委員会（8月9日開催）報告 (資料-25.3.14)

SWS 試験のデータシート修正依頼、JIS 用語選定の進捗について説明があった。

② JIS 用語選定表（20130809 委員会結果） (資料-25.3.15)

用語選定の中間報告があり、選定表が示された。関連する委員会（特に、規格・基準作成に直接携わっているメンバー）でこの表の内容について意見をいただくこととなった。今年度中に用語案を確定させるスケジュールである。

(3) 室内試験規格・基準委員会

① 会員からの質問に対する回答 (資料-25.3.16)

安定処理度の突固めによる供試体作成、岩石の一軸圧縮試験、CBR 試験、粒度試験、土粒子の密度試験に関する質問とその回答が報告された。

これまでの質問と回答に関するデータの蓄積状況とその利用について質問があった。貴重な資料であり有効活用（会員への情報のフィードバック等）することが望ましいとの意見があった。

(4) 地盤調査規格・基準委員会

① H25 第1回委員会（8月28日開催）報告 (資料-25.3.17)

審議事項 (WG3、13、14) について報告があった。

(5) 地盤設計・施工基準委員会

(6) 技能試験実施委員会

(7) 販売促進 WG

(8) 英文HP

(9) 技能試験実施 WG

4. 日本工業標準調査会 土木部会

●H25 年度 基準部関係委員会開催状況

委員会名		委員会開催日, 太字は次回開催日
基準部会	竹下 祐二	5/7, 7/2, 8/27 幹事会, 9/17
ISO 国内委員会	大谷 順	6/21, 8/23 幹事会,
・WG1 ISO/TC182 対応	木幡 行宏	・
・WG2 ISO/TC190 対応	和田信一郎	・
TC190/SC3/WG10 対応 WG	坂井 宏行	・7/27,
・WG3 ISO/TC221 対応	宮田 喜壽	・

室内試験規格・基準委員会 ・WG1 物理特性 ・WG2 化学特性 ・WG3 透水・圧密特性 ・WG4 力学特性 ・WG5 安定化・締固め特性 ・WG6 ジオシンセティックス ・WG7 ベンダーエレメント試験基準化 ・WG10 「土質試験-基本と手引き-」改訂編集 WG ・WG12 動的試験基準検討 WG ・WG13	川崎 了 (小口秀俊) 乾 徹 (藤原照幸) (塚本良道) (阿部哲生) 椋木 俊文 山下 聡 大島 昭彦 伊藤 洋 岡田 哲実	7/19 1 1 1 1 1 6/7, 9/19, 20, 1 1 1 4/19, 1
地盤調査規格・基準委員会 ・WG1 物理探査・検層 (第3編) ・WG2 ボーリング・サンプリング (第4,5編) ・WG3 地下水 (第7編) ・WG4 サウンディング (第6編) ・WG5 載荷試験 (第8編) ・WG6 現場密度試験 (第9編) ・WG7 現地計測 (第10編) ・WG8 環境化学分析のためのサンプリング (第11編) ・WG9 地盤調査の計画, 資料調査・地質調査 (第1,2編) ・WG10 地盤環境調査 (第12編) ・WG11 動的コーン貫入試験方法基準化WG ・WG12 地盤調査-基本と手引き-」改訂編集WG ・WG13 水圧破砕による初期地圧測定法の基準化検討WG ・WG14 単孔を利用した地下水流向流速測定方法の新規基準化WG	利藤 房男 松島 潤 正垣 孝晴 中村 裕昭 田中 洋行 細野 高康 三嶋 信雄 上野 将司 平田 健正 木谷日出男 稲垣 秀輝 大島 昭彦 日比 義彦 伊藤 高敏 進士 喜英	1 1 1 10/3 1 1 1 1 1 1 1 1 8/5, 9/2, 9/9 校正会 4/19 1 4/23, 5/27, 10/2
地盤設計・施工基準委員会 ・WG1 土構造物 ・WG2 杭の水平載荷試験 ・WG3 グラウンドアンカー ・WG4 サンドコンパクションパイル工法 ・WG5 地山補強土	木幡 行宏 本城 勇介 中井 正一 山田 浩 寺師 昌明 龍岡 文夫	1 1 1 1 1 1
地盤工学表記法 ・WG-A	大島 昭彦	4/11, 6/14, 8/7, 10/17
技能試験実施委員会	日置 和昭	4/11

5. その他

- 1) 理事会 (平成25年 5月 13日 (月)) への審議事項・報告事項
- 2) 総務部会 (平成25年 6月 4日 (火) 開催予定) への提案事項
- 3) 次回以降の部会開催日
 - ・ **25年度第4回: 平成 25年 11月 19日 (火) 14:00時~**
(対応理事会 H25.10.23 or H25.11.29)
 - ・ 25年度第4回: 平成 26年 1月 日 () :00時~
(対応理事会 H25.12.18 or H26.1.31)

★ 平成25年度 理事会・運営連絡会議 開催日程 (予定含む)

◎理事会

- ① 4月24日 (金) ※書面審議
- ② 5月13日 (月)
- ★ 6月13日 (木) 総会/理事会
- ③ 6月20日 (木) ※書面審議
- ④ 7月19日 (金)

- ⑤ 9月27日(金)
- ⑥ 10月23日(水) ※書面審議
- ⑦ 11月29日(金)
- ⑧ 12月18日(水) ※書面審議
- ⑨ 1月31日(金)
- ⑩ 2月19日(水) ※書面審議
- ⑪ 3月14日(金)

-
- ⑫ 4月23日(水) ※書面審議
 - ⑬ 5月16日(金)
 - ★ 6月12日(木) 総会/理事会